

活動期間:2020年度(令和2年5月度～令和3年4月度)

1. 組織の概要	P. 2
2. 実施体制図及び対象範囲	P. 3
3. 北都レスター株式会社 環境経営方針	P. 4
4. 環境経営目標(2020度～2022年度)	P. 5
5. 2020年度の環境経営目標と実績	P. 6
6. 環境負荷低減活動の実績推移(2014年度～2020年度)	P. 7
7. 2020年度の環境経営計画	P. 8
8. 取組状況の確認及び評価と今後の方向性	P. 9
9. 環境関連法規等の取りまとめと遵守評価	P. 10
10. 代表者による全体評価と見直しの糸	P. 11

作成日:令和3年6月4日

北都レスター株式会社

1. 組織の概要

(1) 会社名及び代表者名

北都レスター株式会社 代表取締役 稲垣 元彰

(2) 所在地

本社／工場 宮城県仙台市宮城野区日の出町 2丁目2-39 (代)TEL 022-762-6461
 神奈川事業所 神奈川県大和市深見西 1丁目4-31 (代)TEL 046-244-3827
 埼玉事業所 埼玉県川口市新堀 264 (代)TEL 048-284-8610
 東京営業所 東京都武蔵野市西久保1丁目5番6号 ホワイトヴィヲ西久保306号 (代)TEL 0422-55-8845

(3) 環境管理責任者の氏名及び連絡先

環境管理責任者 代表取締役 稲垣 元彰 連絡先 TEL 022-762-6461

(4) 当社のホームページ担当窓口とURL

ホームページ担当者 宮腰 徹 連絡先 TEL 同上 URL : <http://www.hokutolester.jp/>

(5) 事業活動の内容及び車両保有台数

ビジネスフォーム印刷・伝票印刷・商業印刷事業 車両保有台数：社用車総数 5台(普通車3台、バン1台、軽1台)

(6) 事業規模と認証登録対象範囲拡大日程

人員数は、2021年4月21日現在、売上高(年商)は2020年5月度～2021年4月度の実績

*塗りつぶし部分の事業所が「認証登録済み」で、今回55名が更新審査の対象となります。

事業所	認証対象人員数	主たる事業活動	売上高	敷地面積	認証登録拡大計画
本社/工場	10名	総務及び経理、営業、平版印刷	859,750 (千円)	967m ²	2023年1月申請計画中
埼玉事業所	33名(役員・事務局含む)	営業、制作、ビジネスホーム印刷		5257m ²	2021年1月中間審査済み
東京営業所	(内3名埼玉事業所所属)	埼玉営業部付属 営業活動専従			
神奈川事業所	20名(役員2名含む)	営業、制作、カラーによる商業印刷			

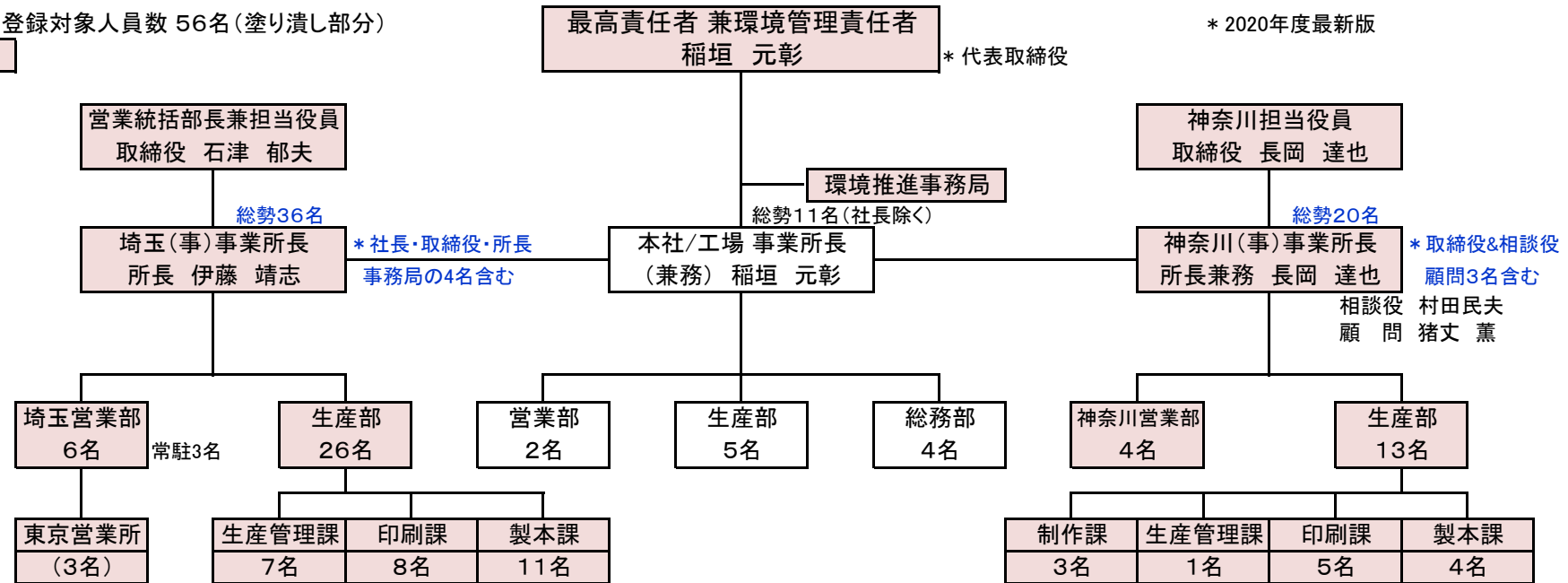
2. 実施体制図及び対象範囲

北都レスター(株) EA21実施体制図

認証登録対象人員数 56名 (塗り潰し部分)



* 2020年度最新版



環境管理体制下の責任と権限

最高責任者	環境管理責任者(補佐 事務局)	事業所長・管理・監督者・一般者
<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の策定及び周知 環境経営マニュアルの承認 環境管理実施体制の明確化 環境管理責任者の任命 取組の対象組織・活動の明確化 人的・物理的資源の準備 代表者による全体の評価と見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷及び取組の自己チェック 環境目標及び環境活動計画の承認 環境関連法規取りまとめ・評価の承認 緊急事態を想定しその予防と対応 実施及び運用・活動の監視と測定 不適合の是正及び予防処置 環境文書・記録類の管理 環境活動レポートの作成及び公表 	<ul style="list-style-type: none"> 実施及び運用・活動の監視と測定 環境目標及び環境活動計画の策定 緊急事態を想定した対応訓練の実施 教育・訓練計画・実施による力量向上 環境コミュニケーションの実施 一般従業員 日々の改善提案及び改善推進 各種環境データの記入・保管

3. 北都レスター株式会社 環境経営方針

環境経営方針

制定日：2018年5月21日

代表取締役：稲垣 元英

経営理念

北都レスター株式会社は、総合的な印刷事業を通じ社会に貢献すると共に、次世代に向けた健全な地球環境を引き継ぐ一員として、限りある資源の有効活用や二酸化炭素の排出量抑制で地球温暖化防止への取組みを推進してまいります。それと、従業員の意識改革や企業価値を高める活動として、全員参加による工程内不良及び顧客クレームの撲滅と、それに伴うムダな経費の削減を目指します。

環境経営方針

1. 地球環境負荷の低減

- 1) 全従業員が創意工夫をし、電力の使用節減に取組み二酸化炭素の排出量削減を目指します。
- 2) 近場の所用は自転車利用を原則とし、社用による出張等は、極力公共の交通機関を利用することで、ガソリンや軽油の使用量を減らし、二酸化炭素の排出量を抑制します。
- 3) ポカミス防止活動の推進で、廃棄物の排出量削減及びエネルギーのムダを排除します。

2. 地球資源の有効活用

- 1) 品質を高め、森林資源を原料とした紙の使用量削減やインキ等副資材のムダを改善します。
- 2) 知恵を絞り、事業活動に必要最低限の水の使用量管理等の「節水活動」を継続推進します。
- 3) 製造過程で発生する紙類や廃プラの「排出物の分別」を徹底し、リサイクルを促進します。

3. 持続可能な社会への取組み

- 1) 製品及びサービスへの取組みとして、包装材の再利用と梱包箱のリターナブルを進めます。
- 2) 当社の事業活動に伴い、適用対象となる環境法規制等の遵守を誓約します。
- 3) 当社は、EA21環境経営システムのPDCAサイクルを常に回し、継続的改善を誓約します。

4. 環境経営目標（2020年～2022年度）

No	環境経営目標項目	単位	基準値	中期年度目標値		
			2013年度	2020年度	2021年度	2022年度
1	効率向上で電力の使用量削減 と二酸化炭素の排出量低減	KWh	965,946.0	869,351.0	859,692.0	850,032.0
		Kg-CO2	507121.7	401640.2	397177.7	392714.8
		基準比	100%	90% (-10%)	89% (-11%)	88% (-12%)
2	ガソリンの使用削減による 二酸化炭素の排出量低減	L	9,960.0	9,163.0	9,064.0	8,964.0
		Kg-CO2	23123.7	21273.4	21043.5	20811.4
		基準比	100%	92% (-8%)	91% (-9%)	90% (-10%)
3	軽油の使用量削減による 二酸化炭素の排出量低減	L	3,762.0	1,505.0	1,430.0	1,317.0
		Kg-CO3	9872.8	3949.6	3752.8	3456.3
		基準比	100%	40% (-60%)	38% (-62%)	35% (-65%)
4	LPGの使用削減による 二酸化炭素の排出量低減	m ³	230.0	186.0	184.0	182.0
		Kg-CO2	690.5	558.4	552.4	546.4
		基準比	100%	81% (-19%)	80% (-20%)	79% (-21%)
二酸化炭素排出量 計		Kg-CO2	540808.6	427421.5	422526.4	417528.8
5	ポカミス防止活動の推進で トータル品質ロス金額の削減	万円	307 万円	153.5 万円	123 万円	107 万円
		基準比	100%	50% (-50%)	40% (-60%)	35% (-65%)
6	使用済古紙の排出量削減	t	447 t	393.4 t	388.9t	384.4 t
		基準比	100%	88% (-12%)	85% (-13%)	83% (-14%)
7	廃プラの排出量削減	Kg	4,166 kg	3,541 kg	3,500 kg	3,500 kg
		基準比	100%	85% (-15%)	84% (-16%)	84% (-16%)
8	水の使用量抑制管理	m ³	1,038 m ³	935 m ³	935 m ³	935 m ³
		基準比	100%	90% (-10%)	90% (-10%)	90% (-10%)
9	PRTR対象物質使用量 150kg以下の管理	品種	218kg	150kg以下	150kg以下	150 kg以下
		基準比				
10	包装・梱包資材の再利用促進	Kg	0 kg	2,000 kg以上	2,000 kg以上	2,000 kg以上
		基準比				

* 電力の使用量に関する二酸化炭素排出係数は、2017年度の東京電力の調整排出係数(0.462)で算出。

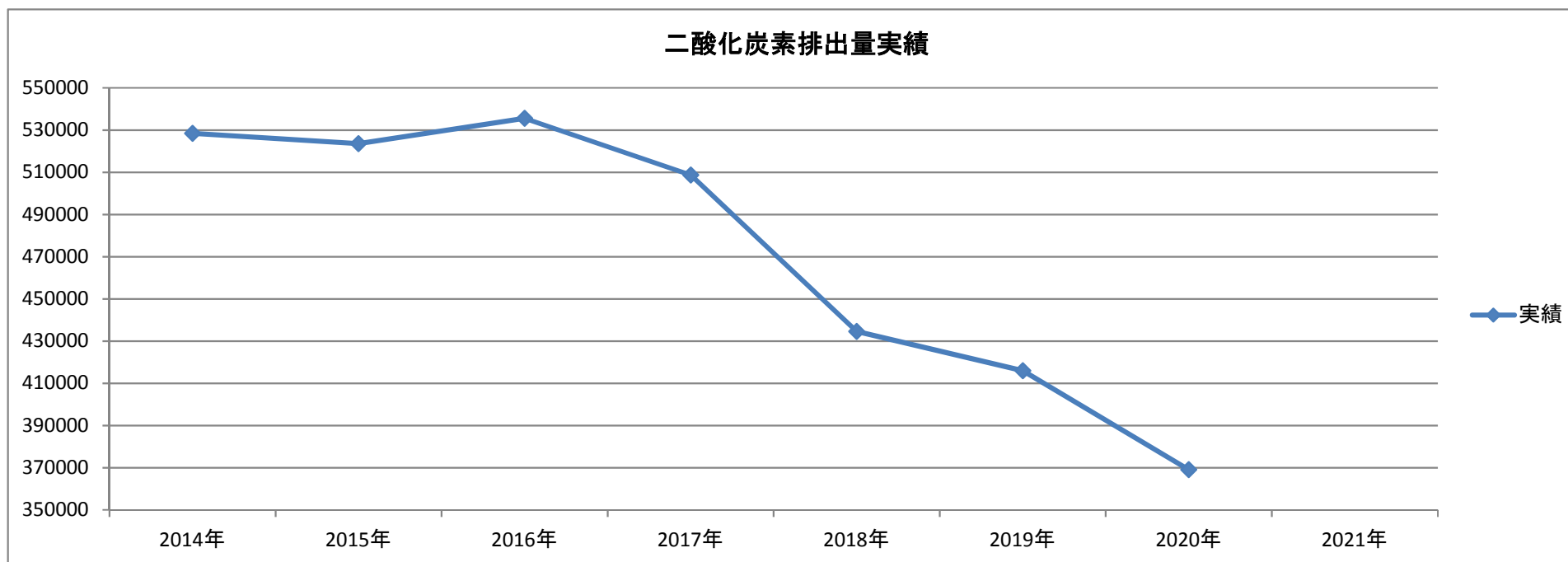
5. 2020年度の環境経営目標と実績

2020年度（2020年5月度～2021年4月度）

実績評価基準：目標達成 ○ 目標未達成 ×

No	環境経営目標項目	単位	基準値	中間目標値	中間実績値	中間 評価	年間目標値	年間実績値	年間 評価
			2013年度	2020年度	2020年10月度		2020年度	2020年度	
1	効率向上で電力の使用量削減 と二酸化炭素の排出量低減	KWh	965,946.0	430,000	378,082.0	○	869,351	755,250	○
		Kg-CO2	507,121.7	198,660	174,673.9		401,640	348,926	
		基準比	100%	100%	実績 -51,918		90% (-10%)	実績 -114,101 Kwh	
2	ガソリンの使用削減による 二酸化炭素の排出量低減	L	9,960.0	4,200.0	3,780.8	○	9,163.0	7,342.3	○
		Kg-CO2	23,123.7	9,751.0	8,777.7		21,273.4	17,046.3	
		基準比	100%	100%	実績 -419.2		92% (-8%)	実績 -1,820.7 L	
3	軽油の使用量削減による 二酸化炭素の排出量低減	L	3,762.0	650.0	374.2	○	1,505.0	982.9	○
		Kg-CO2	9,872.8	1,705.8	982.0		3,949.6	2,579.5	
		基準比	100%	100%	実績 -275.8		40% (-60%)	実績 -522.1 m ³	
4	LPGの使用削減による 二酸化炭素の排出量低減	m ³	230.0	62.0	55.6	○	186	165.1	○
		Kg-CO2	690.5	186.1	166.9		558.4	495.6	
		基準比	100%	100%	実績 -6.4		81% (-19%)	実績 -20.9 m ³	
二酸化炭素排出量 計		Kg-CO2	540,808.6	210,302.9	184,600.6	○	427,421.5	369,046.9	○
5	ポカミス防止活動の推進で トータル品質ロス金額の削減	万円	307	75 万円以下	62.9 万円	○	153.5 万円以下	153 万円	○
		基準比	100%	—	実績 -12.1		50% (-50%)	実績 -0.5 万円	
6	使用済み古紙の排出量削減	t	436.8 t	194 t	157.3 t	○	393.4 t	336.8 t	○
		基準比	100%	100%	実績 -36.7		90% (-10%)	実績 -56.6 t	
7	廃プラスチックの排出量削減	Kg	4,166.0	1,660 kg	1,586 kg	○	3,541 kg	3,520 kg	○
		基準比	100%	100%	実績 -74		85% (-15%)	実績 -21 kg	
8	水の使用量削減	m ³	1,038	460 m ³	431 m ³	○	935 m ³	931 m ³	○
		基準比	100%	100%	実績 -29		90% (-10%)	実績 -4 m ³	
9	PRTR対象物質の 使用量150kg以下の管理	Kg	218	75	52.9 kg	○	150 kg以下	109.2 kg	○
		基準比	100%	100%	実績 -22.1		68.8% (-31.2%)	実績 -40.8 kg	
10	包装・梱包資材の再利用促進	Kg	0	1,000 kg 以上	1,098 kg	○	2,000 kg 以上	2,233 kg	○
		基準比	0	1,000 kg 以上	実績 +98		2,000 kg 以上	実績 +233 kg	

6. 環境負荷低減活動の実績推移（2014年～2020年度）



(排出量単位：CO2-Kg)

活動項目 / 年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
二酸化炭素の排出量合計	528,475.9	523,623.2	535,558.1	508,734.4	434,579.2	415,951.6	369,046.9
電力(二酸化炭素排出量)	496,449.5	493,717.9	506,072.2	481,160.9	405,560.2	390,645.9	348,926.0
ガソリン(二酸化炭素排出量)	22,012.4	21,855.0	22,614.4	22,632.2	18,053.7	20,154.6	17,046.3
軽油(二酸化炭素排出量)	9,330.6	7,558.4	6,439.6	4,399.7	10,580.6	4,706.2	2,579.5
LPG(二酸化炭素排出量)	683.5	492.0	432.0	541.6	456.6	444.9	495.6

* 2016年度の二酸化炭素排出量の増加は、UV印刷機1台を新規増設したことで電気の使用量等が増加した。

7. 2020年度の環境経営計画

2020年度（2020年5月度～2021年4月度）

* 四半期に一度、実施状況について計画通りに推進されているか確認・評価を実施する。

No	環境経営計画	単位	具体的な活動項目	担当責任	日程	2019年 →						2020年 →					
						5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
1	二酸化炭素の排出量削減	Kwh	①蛍光管から、LED照明への切換え促進	伊藤長岡	目標	60,000	70,000	70,000	75,000	85,000	70,000	70,000	70,000	70,000	85,000	80,000	64,351
			②改善促進による生産性向上と働き方改革		実績	47,586	63,183	61,777	64,537	81,363	59,636	51,844	58,586	61,087	83,177	69,044	53,430
			③オンデマンド契約による使用電力の徹底管理		実績度	-12.414	-6.817	-8.223	-10.463	-3.637	-10.364	-18.156	-11.414	-8.913	-1,823	-10.956	-10.921
2	ガソリンの使用量削減	L	①ドライブナビによる効率的な客先訪問継続	高橋野中	目標	650.0	700.0	700.0	650.0	750.0	750.0	750.0	850.0	750.0	800.0	880.0	933.0
			②営業活動及び出張時の公共交通機関利用継続		実績	629.8	603.0	732.8	626.8	585.6	602.8	703.3	527.7	811.5	479.6	460.4	579.0
			③TPOによる軽油車との使用バランス管理		実績度	-20.2	-97.0	32.8	-23.2	-164.4	-147.2	-46.7	-322.3	61.5	-320.4	-419.6	-354.0
3	軽油の使用量削減	L	①エコドライブによる配送業務の継続推進	長濱	目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	150.0	150.0	150.0	100.0	100.0	150.0	205.0
			②自転車を活用した通勤及び所用の促進		実績	26.5	60.5	35.2	76.0	68.2	107.8	115.2	72.1	66.2	78.2	85.5	191.5
			③TPOによるガソリン車との使用バランス管理		実績度	-63.5	-29.5	-64.8	-24.0	-31.8	-42.2	34.8	-77.9	-33.8	-21.8	-64.5	13.5
4	LPGの使用量削減	m ³	①給湯器の期間限定使用12月～3月の継続 (各給湯器に使用期間表示の徹底)	菊池伊原	目標	18.0	10.0	8.0	8.0	8.0	10.0	16.0	20.0	22.0	22.0	22.0	22.0
			②一部給湯器の利用休止制限継続推進		実績	15.7	11.3	8.0	7.6	3.8	9.2	12.7	17.6	21.1	19.0	19.9	19.2
			実績度		-2.3	1.3	0.0	-0.4	-4.2	-0.8	-3.3	-2.4	-0.9	-3.0	-2.1	-2.8	
5	ポカミス防止活動推進によるトータル品質ロス金額の削減	千円	①全社ポカミス防止キャンペーン推進の継続	森野長濱	目標	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	150.0	120.0	120.0	130.0	130.0	130.0	155.0
			②週1回課題検討会の定例開催による品質向上		実績	0.0	52.5	6.6	64.4	455.0	50.6	42.0	228.1	84.0	46.2	500.2	0.0
			③役員を含めた品質の月度報告と定例会議の開催		実績度	-120.0	-67.5	-113.4	-55.6	335.0	-99.4	-78.0	108.1	-46.0	-83.8	220.2	-150.0
6	使用済み古紙の排出量削減	t	①色だし、試し刷り等によるヤレ紙の排出削減	菊池澁谷	目標	32.0	32.0	32.0	32.0	32.0	36.0	32.0	32.0	32.0	32.0	32.0	37.4
			②段取り時のセットミス等による仕損紙の削減		実績	26.1	26.1	24.3	22.1	28.4	29.0	30.0	30.4	25.9	30.8	36.6	27.1
			③ポカミス等の人的要因による廃棄紙の削減		実績度	-5.9	-5.9	-7.7	-9.9	-3.6	-7.0	-2.0	-1.6	-6.1	-1.2	4.6	-10.2
6	廃プラスチックの排出量削減	Kg	①原材料の包装形態改善で廃プラの減量化	菅渡邊	目標	260	290	280	260	250	320	250	280	280	300	350	421
			②プラ製緩衝材の使用及び購入禁止の推進		実績	196	211	258	157	473	291	226	235	231	377	320	545
			③事業所内排出プラの分別徹底継続推進		実績度	-45	-39	-12	-143	173	-29	-24	-15	-29	27	-30	145
7	水の使用量削減	m ³	③事業活動に必要な最低限の使用管理推進	伊藤長岡	目標	45.0	110.0	45.0	110.0	45.0	105.0	45.0	110.0	45.0	110.0	55.0	110.0
			②トイレ使用時や食器洗浄時の節水の推進		実績	42.0	109.0	37.0	108.0	39.0	96.0	41.0	138.0	40.0	147.0	45.0	89.0
			③ローラー洗浄の節水キャンペーン継続推進		実績度	-3.0	-1.0	-8.0	-2.0	-6.0	-9.0	-4.0	28.0	-5.0	37.0	-10.0	-21.0
8	PRTR対象物質の使用量200kg以下管理	Kg	①品種替えはエコ製品の導入を前提とする	小室近藤	目標	半期(上期) 75 kg以下						年間 150 kg以下					
			②含有試供品は知見後速やかに返却する		実績	52.7 kg						109.2 kg					
			③品種を増やす場合は含有量3%以下とする		実績度	-18.7						-40.8					
9	包装・梱包資材の再利用の促進	Kg	①PSアルミ版用合紙の再利用継続推進 (製品梱包・出荷時の緩衝材としての再利用)	大竹	目標	166.0	166.0	166.0	166.0	166.0	170.0	166.0	166.0	166.0	166.0	166.0	170.0
			②梱包箱のリターナブル(通函化)継続推進		実績	174	177	185	181	182	199	177	190.0	177	195	202	194
			実績度		8.0	11.0	19.0	15.0	16.0	29.0	11.0	24.0	11.0	29.0	36.0	24.0	

8. 取組状況の確認及び評価と今後の方向性

* 中間評価基準：○ 実施できた × 実施できなかった

No	環境経営推進項目	具体的な取組み事項	実施評価	評価理由と今後の方向性
1	二酸化炭素の排出量削減	①蛍光管から、LED照明への切換え促進	○	神奈川事業所は、印刷の一部を除きほぼ完了。埼玉事業所は、導入継続推進中。改善箱の設置や課題対策会議・ミーティング等を通じ、働き方改革や生産性を向上。神奈川事業所に引き続き、埼玉事業所もオンデマンドシステムを導入・推進中。
		②改善促進による生産性の向上と働き方改革	○	
		③オンデマンド契約による使用電力の徹底管理	○	
		④古紙を回収し、資源として活用	○	
2	ガソリン使用量削減	①ドライブナビによる効率的な客先訪問継続	○	客先より訪問禁止指示等の中、訪問可能な客先に対し、地道な活動を実施した。東京営業所メンバーを中心に、客先訪問や出張時には公共の交通機関を利用。ガソリン車とディーゼル車のコスト及び利便性を考慮し、TPOで使い分けを実施。
		②営業活動及び出張時の公共交通機関利用継続	○	
		③TPOによる軽油車との使用バランス管理	○	
3	軽油使用量削減	①エコドライブによる配送業務の継続推進	○	制限速度の遵守やムダな積荷の抑制等、これまで通り地道な活動を実践している。神奈川事業所の部門長を含め、埼玉事業所の課員を中心に自転車通勤を実践中。ガソリン車とディーゼル車のコスト及び利便性を考慮し、TPOで使い分けを実施。
		②自転車を活用した通勤及び所用の促進	○	
		③TPOによるガソリン車との使用バランス管理	○	
4	LPG使用量削減	①給湯器の期間限定使用12月～3月の継続 (各給湯器に使用期間表示の徹底)	○	使用期間の限定利用や温度設定の低温化等を中心に、今年度も継続推進中。但し、更なる使用削減は厳しい状況で、新たなアイデア抽出が課題となっている。当然のことだが、初夏から秋口にかけては使用の制限を実施している。
		②一部給湯器(1台)の利用休止制限継続推進	○	
5	ポカミス防止活動の推進でトータル品質ロス金額削減	①全社ポカミス防止キャンペーン推進の継続	○	うっかりや思い込みによるポカミスを防止するための第三者検品の導入・推進中。各工程を対象とした「工程別品質対応会議」を定期開催し、問題点の対策を協議。全社の品質実績報告と定例会議開催による問題点の対策と課題の共有化。
		②週1回課題検討会の定例開催による品質向上	○	
		③役員を含めた品質の月度報告と定例会議の開催	○	
6	使用済み古紙の排出量削減	①色だし、試し刷り等によるヤレ紙の排出削減	○	オペレーターへの意識改革により、試し刷り段階(テストラン)時のヤレ紙削減。段取り段階での水の供給不足や紙のセッティングミス対策キャンペーン展開中。ポカミス撲滅キャンペーンを展開中で、徐々にではあるが成果が出始めている。
		②段取り時のセットミス等による仕損紙の排出削減	○	
		③ポカミス等の人的要因による廃棄紙の削減	○	
7	廃プラの排出量削減	①原材料の包装形態改善でゴミの減量化推進	○	過剰梱包による廃プラスチックの排出抑制として、原料メーカーに改善要請を展開。自工場発送の製品に関しては、合紙や端切れ紙をメインに使用し、脱プラを実施中。コンビニ弁当を含めた外部よりの持ち込みゴミの「持ち帰りキャンペーン」を推進中。
		②プラ製緩衝材の使用及び購入禁止の推進	○	
		③事業所からの排出プラの分別徹底継続推進	○	
8	水の使用量削減	①事業活動に必要最低限の水の使用管理推進	○	印刷工程の乾燥防止(静電気発生抑制)や手洗い・飲料等の限定利用推進中。用途に応じた使用水量や洗浄方法の工夫等で、節水の継続推進中。設備や回転ローラー等の付属部品の洗浄手順を明確化し、節水を推進中。
		②トイレ使用時や食器類洗浄時の節水の推進	○	
		③ローラー洗浄時の節水キャンペーン継続推進	○	
9	PRTR対象物質使用量150kg以下の管理	①品種替えはエコ製品の導入を前提とする	○	新規薬剤や化学物質を導入する際は、エコ物質を優先し、特管物質は導入しない。試験的に導入した試薬物質やテスト品は、長期間職場に保管せず、返却する。PRTR対象物質が3%を超える物質に関しては導入しない。を原則展開中。
		②含有試供品は知見後速やかに返却する	○	
		③品種を増やす場合は含有量3%以下とする	○	
10	包装・梱包資材の再利用促進	①PSアルミ版用合紙の再利用継続推進 (製品梱包・出荷時の緩衝材としての再利用)	○	アルミ製のPS版を購入した際、保護用の合紙を捨てずに、緩衝材として再利用を実施中で、年間で約500kg以上の実績を計上している。毎月度受注する特定の客先との間で、リターナブル用梱包箱の利用を推進中。
		②梱包箱のリターナブル(通函化)継続推進	○	

9. 環境関連法規等の取りまとめと遵守状況評価

適用	適用法令・条例名	主な法規制等の内容	当社の対応事項	遵守評価
遵守義務のある法規制関連	廃棄物処理法	・収集運搬、処分事業者と産廃処理委託	・認可証の写し添付、契約書(終了後)5年間保管	○ 遵守
		・廃棄物置場の保管基準の遵守	・集積場の設置と適切な保管管理	
		・特管産廃・使用済蛍光灯に関する適正保管	・水銀使用廃棄物と表示し、割れぬ様保管する	
		・産業廃棄物環境管理表の交付・報告	・知事への報告及び管理表の5年保管	
	家電リサイクル法	・エアコン・テレビ等の特定家電の再商品化	・廃棄する際に収集・運搬等の料金負担	今回非該当
	資源有効利用促進法	・指定家電製品(パソコン)の再資源化	・パソコンの廃棄時、指定の回収業者に引き渡し	今回非該当
	自動車リサイクル法	・使用済自動車のリサイクル及び適正廃棄	・再資源化費用預託し、業者に引き渡し	○ 遵守
	化管法(PRTR制度)	・対象物質の排出量及び移動量確認、届出	・法令に基づく指定物質の排出、移動量の適正管理	今回非該当
	騒音規制法	・指定区域内での特定工場棟の規制基準順守	・規制基準の遵守・コンプレッサー等の届出	○ 遵守
	振動規制法	・指定区域内での特定工場棟の規制基準順守	・規制基準の遵守・印刷機等の届出	○ 遵守
	浄化槽法	・浄化槽の正常な機能の維持管理	・年1回定期検査、3ヵ月1回清掃・点検の実施	○ 遵守
	自動車 NOx PM法	・埼玉・神奈川県に使用本拠の車が対象	・事業所で使用しているディーゼル車・トラックが対象	○ 遵守
	水質汚濁防止法	・有害物質の地下への浸透未然防止・届出	・貯蔵タンクからの漏えい防止と定期点検	○ 遵守
	フロン排出抑制法	・廃棄時、第一種フロン回収業者に引き渡し	・フロン回収業者が交付する引取り証明書保存	今回非該当
・回収依頼、委託確認、引き取り証明		・業務用エアコン廃棄時の行程遵守		
・第一種特定製品(業務用空調機)等の管理		・簡易点検(1回/3ヵ月)及び定期点検の実施、他	○ 遵守	
消防法	・指定量以上の危険物の貯蔵禁止等	・危険物の貯蔵量遵守と適正管理	○ 遵守	
責務規制	グリーン購入法	・循環型社会形成のための環境物品調達	・環境配慮型物品の積極購入	○ 遵守
	省エネ法	・エネルギーの合理的な使用に関する処置・他	・全社活動として、電力等の削減活動に取り組む	○ 遵守
	循環型社会形成基本法	・資源の循環的利用及び処分の基本原則	・非鉄金属資源の再資源化推進	○ 遵守

* 本年度環境関連法規制に関する遵守状況を確認・評価した結果、特に問題はありませんでした。また、関係当局よりの違反や訴訟等は過去3年間ありません。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

実施日：2021年5月25日（火）

代表者：稲垣 元英

No.	1. 環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施及び運用	結果	活動の評価結果と将来の方向性指示
1	環境経営目標を達成することができたか、また設定値に関する妥当性はどうか	<input checked="" type="checkbox"/> 適合 <input type="checkbox"/> 不適合	水の使用量を含めたエネルギー関連全般の目標はクリアしたが、電力の使用量等はコロナ禍での売上のダウンを考慮した場合、割り引いた当然の実績と受け止めている。
	地球環境負荷低減活動の取組事項に関し、実績値を残すことができたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適合 <input type="checkbox"/> 不適合	化石燃料関連の実績についても、客先訪問の休止・禁止に加え営業マンの中途退職等々の事由が発生し、このような実績（結果）となったと受け止めている。
2	環境経営計画に記載した具体的な項目は実施され、また運用されているか	<input checked="" type="checkbox"/> 適合 <input type="checkbox"/> 不適合	当所の計画通り、概ね全ての項目において実施され、運用されている。品質ロス計画は、目標内に収まったとはいえ、特定の人物に集中して発生し、今後の重要課題となる
	地球資源の有効活用に関する取組事項に関し、内容に変更する部分は無い	<input checked="" type="checkbox"/> 適合 <input type="checkbox"/> 不適合	様々な事由や原因が有ったにせよ、エネルギーを中心とした削減目標を大幅に達成し、活動当所の実績比（通減率）で見ても、順調に活動成果が得られていると自負している。

・環境経営目標及び環境経営計画に関する言及

2019年の終わりごろに発生した「新型コロナウイルス」は、2020年代に入ると更に世界的な感染拡大となり、数百万人の死亡者が発生。また、経済的な損失も大きく、企業倒産や生活困窮者が多数発生する等、政治・経済が混沌としている。このような現状を踏まえ当社として、次年度の売り上げ目標や生産量といった実行計画の予測を立て、環境経営目標及び環境経営計画を立案するか慎重に検討していきたい。

No.	2. 環境関連法規制等の遵守状況及び実施体制の見直し結果	結果	取組状況及びその評価と見直しの必要性
1	環境関連法規制等の遵守状況及び顧客指示または要請事項に関する遵守状況	<input checked="" type="checkbox"/> 適合 <input type="checkbox"/> 不適合	環境関連法規制等の遵守に関しては、違法行為も無く業務を遂行した。また、顧客特有の要請事項等に関しても問題無く遂行した。
2	環境に関する外部からの苦情または要望事項への対応及び見直しの必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適合 <input type="checkbox"/> 不適合	今年度に関しても、外部からの苦情及び要望事項等は一軒も発生していません。尚今年度も事業所に隣接している民家の蔦の伐採や落ち葉等の清掃を実施した。
3	環境経営システムにおける実施体制は適切か。将来に向け改善する部分はな	<input checked="" type="checkbox"/> 適合 <input type="checkbox"/> 不適合	環境経営システムにおける実施体制的には、社長交代や役員交代が実施されたが、特に問題点もなく順調に遂行されている。

・環境関連法規及び外部コミュニケーション及び実施体制への言及

コロナ下ではあるものの「環境関連法規制等の遵守」状況は、違法行為もなくしっかりと遂行できた。また、外部からの苦情や要望事項等の事例も発生しておりません。引き続き、この状態を維持していきたい。

なお、環境経営システムにおける実施体制に関しては、次年度も社長の私が代表者及び環境管理責任者を兼務する形で運用する。

No.	3. 代表者による経営における課題とチャンスに関する言及と全体の評価
	・2020年度に関しては、品質ロス課題を最前面に打ち出し、その削減活動を埼玉事業所及び神奈川事業所を中心に展開した。その結果、埼玉事業所に一部の課題が残るものの、概ね良好な実績が得られた。特に、神奈川事業所においては大幅な品質ロス改善の結果が得られ、満足している。次年度(2021年度)は、SDGs 持続可能な開発目標より、当社に関連付けた課題項目をピックアップし、活動を進める。